

研究主題

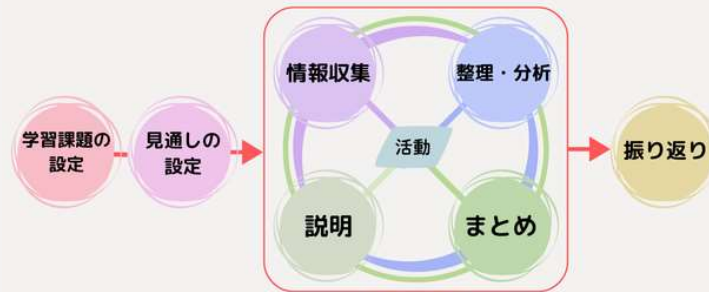
「自立した学習者の育成 × 学びの質の向上」



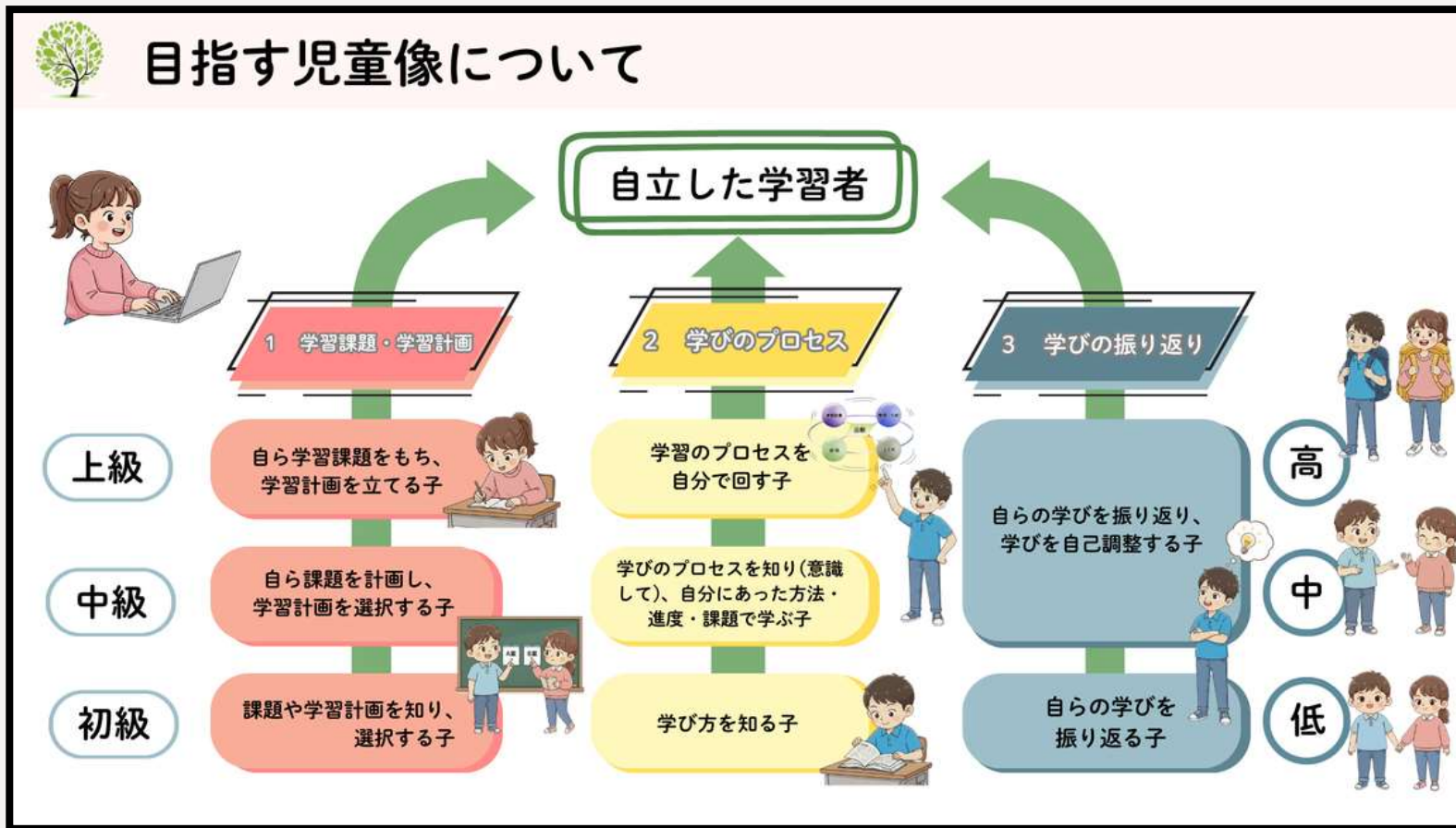
Q1. 自立した学習者とは、どんな姿ですか？

学習課題や進め方を

自ら調整し、学びのプロセスを自分で回しながら学ぶ児童



目指す児童像について





Q2.今の授業と大きく異なり、何から始めたらよいか分かりません。

まずは、小さな「**学習方法や学習形態、学ぶ場所の自己選択**」から始めたら、どうでしょうか？



最初の一步	15分程度から。「白紙か罫線か」「個別か、誰と一緒に学ぶか」「どこで学ぶか」を選ぶ経験を積む。	次の段階	単元の中で1～3単位時間の学習計画を立て、自らの学びを調整する。
広がり	学期に1単元は、単元全体を児童に委ねる。	浸透	年間を通して経験を積み、自立した学習者となる。

Q3.つまり、タブレット端末を使えばよいのですか？



違います。
タブレット端末は**目的ではなく、学びを支える手段の一つ**です。

本質	利点	選択	共通理解
児童が多様な学びを行う際に使用する道具	教師が児童の状況を即時に把握し、適切な助言・支援を行いやすくする	目的や実態に応じ、児童自身がタブレット端末を使わず、紙等を活用する選択もある	「情報活用能力系統表」により、適切な活用の判断を共有する

Q4.没頭するあまり、協働する姿が見られません。いいのでしょうか？

委ねる授業では、そのような姿が見られることもあります。



- ・ 変化の過程：学習観が変わる中で、情報収集や表現（スライド等）に熱中するのは自然なことです。
- ・ 教師の役割：対話の場や他者参照が必要な課題を意図的に設定する。
- ・ 実感：「友達と学ぶと発見がある」と児童自身が気付くことを待つ。
- ・ ゴール：実感を伴うことで、自然と協働的な学びへと移行していく。

Q5.児童に学びを委ねて、指導事項を定着することができるのでしょうか？



できます。
教師が「**学びの伴走者**」となることで定着は可能です。

ねらいの共有	見取りと支援	自己調整	結論
学習の目的や評価規準を事前に共有し、方向性を示す。	教師がリアルタイムで児童の状況を把握し、個別に必要な助言を行う。	振り返りを通して、学び方そのものを次に生かす。	主体的な学びと指導事項の定着は、両立できる。

児童の変容（自立編）

令和7年度全国学力・学習状況調査結果

児童は、自ら学び方を考え、主体的に課題に取り組んでいる

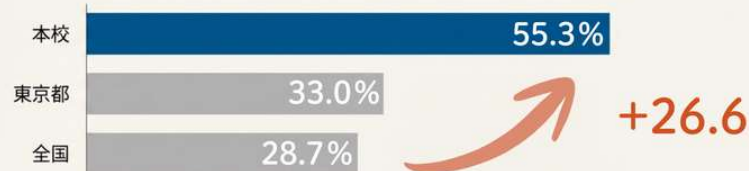
設問(16) わからないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。（「よく当てはまる」の割合）



本校の児童は、課題に対して受け身ではなく、**主体的に学び方を考える姿勢**が、全国平均を大幅に上回っています。これは、本校の研究が自立した学習者の育成に寄与していることがうかがえます。

学んだ知識を活用し、論理的に自分の考えを構築する活動が定着している

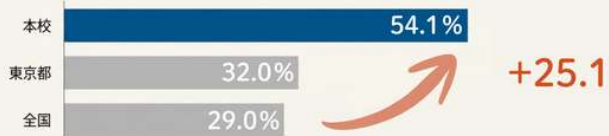
設問(33) 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。（「よく当てはまる」の割合）



知識のインプットに留まらず、**得た知識を応用して自身の思考を構築する**という、高度な学習活動において圧倒的な強みを見せています。

課題解決に向けて、指示を待つのではなく、自ら考え行動している

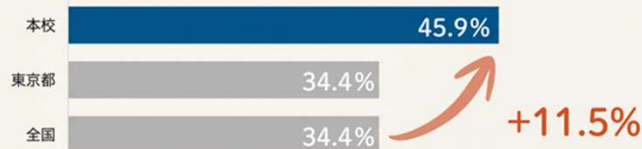
設問(32) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。（「よく当てはまる」の割合）



授業において、**自ら思考し、率先して課題に取り組む意欲**が極めて高いことが示されています。これは、本校の教育方針が実践レベルで深く浸透していることの表れです。

児童は、授業が自分に合っていると感じ、安心して学習に臨んでいる

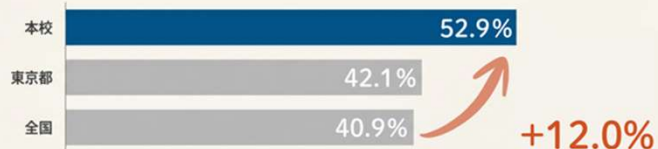
児童は、授業が自分に合っていると感じ、安心して学習に臨んでいる
設問(34) 5年生までに受けた授業では、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていましたか。（「よく当てはまる」の割合）



児童一人一人が**自らの学びを調整できていることを実感**していることが、主体的な学びの姿勢を支える強固な土台となっていると考えられます。

友人との対話を通じて、思考を深め、視野を広げている

設問(35) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。（「よく当てはまる」の割合）



他者との協働的な学びにおいても高い成果を上げており、**多様な視点を取り入れながら思考を発展させる力が育ま**れていることが分かります。

児童の変容（デジタル編）

令和7年度全国学力・学習状況調査結果

ICT機器の授業での使用頻度が高く、他地域と比較して非常に進んでいる

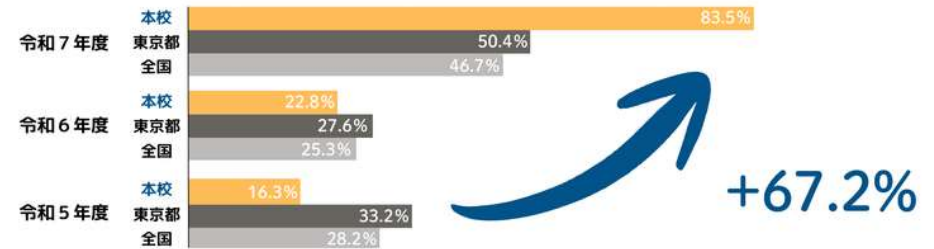
質問(28) 5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。
(「ほぼ毎日(複数の授業で活用)」と回答した児童の割合)



授業におけるICT機器の使用頻度の高さから、他地域と比べても、ICTを日常的に取り入れた学習環境が形成されていると考えられます。

【参考】 質問(28) 令和5年度から令和7年度までの変化

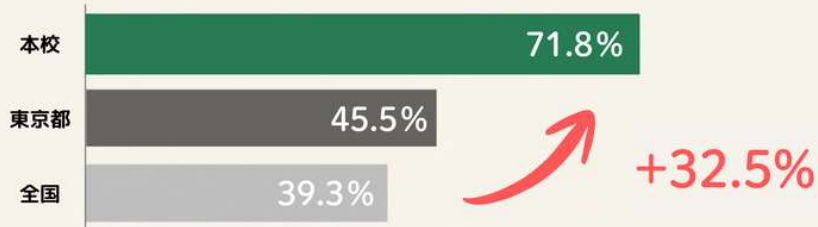
5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。
(「ほぼ毎日(複数の授業で活用)」と回答した児童の割合)



令和7年度はICT機器活用率が大幅に増加し、全国・東京都と比べて高い割合を示していることから、ICTが学びを支える道具として浸透していることがうかがえます。

ICTを活用した基本的なスキルに対する自信が高い

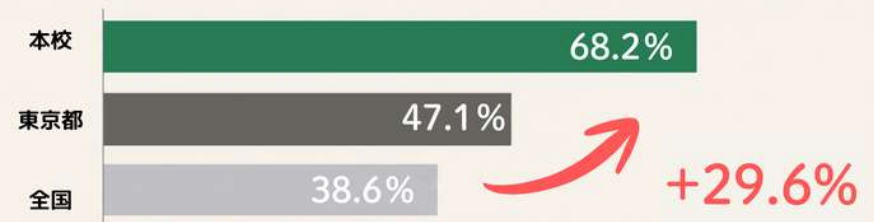
質問(29-1) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど) ができると思いますか。(「とてもそう思う」と回答した児童の割合)



文章やコメント入力といった基礎的なスキルに関して、全国平均を上回る自己効力感が確認され、本校の取組の成果が表れていると考えられます。

プレゼンテーション(発表スライド)作成への自信が高い

質問(29-4) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか。(「とてもそう思う」と回答した児童の割合)



プレゼンテーション資料の作成に対する自信の高さから、ICTが単なる道具ではなく、表現を支えるツールとして定着しつつあることがうかがえます。

校長挨拶

「子どもたちには、もともと素晴らしい力をもっている。」
この校内研究を通して、改めて実感したことです。

これまで、私たち教員がよかれと思ってしたことが、子どもの主体性や自立を奪っていたこともあるかもしれません。子どもたちは大人が思っている以上に自分の力でできるものです。

人生100年時代！子どもたちが生涯学び続けることができる、「自立した学習者」をこれからも育成していきたいと考えております。

また、御指導いただきました先生方には、心から感謝と御礼を申し上げます。

上向台小学校の実践

学びのプラン案・ルーブリック・成果と課題

低学年



中学年



高学年



東京都教育委員会「デジタルを活用したこれからの学び」デジタルブック



御指導・御協力いただいた先生方

東京学芸大学教育学部 教授 高橋 純 先生

杉並区立松ノ木小学校長 笠原 秀浩 先生

東久留米市立本村小学校 副校長 池田 守 先生

研究に携わった教職員

【校 長】	酒見 裕子	【副校長】	河又 学	◎研究主任	○研究推進部
【第1学年】	五十嵐 和加	○伊森 祥乃	弘田 佑季子	林 望誠	
【第2学年】	◎戸原 真彦	阿部 歩莉	遠藤 美紀	澤田 結	
【第3学年】	金井 元樹	村上 佳苗	堀川 舞	○金津 春菜子	
【第4学年】	金子 真理	石川 瑛子	杉田 千里	○林 咲恵子	
【第5学年】	関根 ゆかり	星野 洸子	○内川 航	村上 未紗	
【第6学年】	森川 大毅	富岡 花桜理	古矢 彩音	○花俣 博己	
【専科】	○板木 恭世 並木 美奈	○嶋 明香理	水田 美和	奥田 静恵	秋本 康太
【養護】	安達 佳美	【事務・栄養士】	朝比奈 直嗣	北条 琴子	下田 美穂